



「見えないものにさわっている」

ツェンコヴァ・ルミアナ 神戸大学教授

“人は「水」でできている。
もしその「水」が「鏡」だったとしたら、
お互いを写しあっているのかもしれない。
相手を照らせば、自分も輝く。
そしてその光がさらに他を照らすことで、光の循環が生まれる。
この光の循環こそが、「いのち」そのものかもしれない。”

見
も
え
な
い

「聞こえないものにさわっている」

柿坂神酒之祐 天河神社 名誉宮司

柿坂匡孝 天河神社 宮司

“すべては、
天からいただく一滴の水からはじまります。
涙のような一滴の水の粒。
その水は、いずれ川となり流れを形作っていきます。
その流れを想うと、宗教的であり、科学的であり、哲学的です。
水には、この三位一体のエネルギーが含まれているのです。

森羅万象からいただいた命を見極めたとき、到達するのが水です。
水は『清らかで、明るく、素直で、正しい』ものです。

その魂は、肉体が無くなったとしても永遠に生き続けるのです。
あなたの魂も、私の魂も、永遠に輝き続けるのです。
その作用をしてくださるのが、水なのです。”

聞
も
こ
え
な
い



「感じられないものにさわっている」

佐治晴夫 理論物理学者

“私たちのからだは、およそ数十兆個の細胞から
できていて、その細胞は水で満たされています。
また、数千億の細胞は一晩で入れ替わるとも言われています。
ということは、昨日と同じ自分はもうどこにもいません。
生きるとは、毎日毎日、新しい自分で死ぬまで生きるということ。”

感
じ
ら
れ
な
い

「考えられないものにさわっている」

“地球の表面の70%は水で覆われています。
そして人の身体も70%が水だといわれています。
だとすると、我々の最も深い感情や思想もひょっと
すると水が感じ、水が考えているのかもしれない。”

考
え
ら
れ
な
い

